イチゴの萎黄病について

イチゴの萎黄病が例年より多く確認されている。イチゴの萎黄病の病原菌はフザリウム属菌(カビの一種)であり，イチゴの根から感染する。土壌伝染と苗伝染によって拡がり，発病後の薬剤による防除対策はない。

発病すると，新葉が黄緑色になり，舟形にねじれ，3 小葉のうち 1～2 葉が小さくなる(写真 1)。また，クラウン部を切断すると，維管束の一部または全体が褐色に変色する(写真 2)。

発病株は見つけ次第ただちに抜き取り，圃場外に持ち出して腐熟化させる等適切に処分する。今作で発病が多かった圃場では，来作の土壌消毒を徹底する。

写真 1

写真 2

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報 11 月号（平成 24 年）より抜粋